

小樽商科大学 卒業論文 (昭和34年度)

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和34	1220	日本経済の二重構造 -賃金格差と就業構造を中心として-	
昭和34	1221	投資基準の検討	
昭和34	1222	デューゼンベリーの「動学モデル」について	
昭和34	1223	第一部 翻訳 Harrod; Scope and Method of Economics(ハロッド; 経済学の範囲と方法)、第二部 論文 言語、概念、社会	
昭和34	1224	戦後日本の雇用動向	
昭和34	1225	経済成長と雇用に関する若干の考察	
昭和34	1226	イギリス16世紀のインクロージュア	
昭和34	1227	『いわゆるコルベールティズムの歴史的な性格に関する考察』	
昭和34	1228	絶対王政と商業資本 -とくにエリザベス絶対王政とマーシャント・アドヴェンチャラズを中心として-	
昭和34	1229	哲学的価値について	
昭和34	1230	レーニン「1905-1907年のロシア革命における社会民主党の農業綱領」について	
昭和34	1231	英国に於ける農村の相貌 -ハンプシャ・クローリー・マネー-	
昭和34	1232	忘れられた思想家ジェラード・ウィンスタンリー研究	
昭和34	1233	後進国開発理論に於ける基本的問題点	
昭和34	1234	「小親方層」の成立	
昭和34	1235	クロムウェル研究	
昭和34	1236	A.C.ゲルツェンの生涯とその思想	
昭和34	1237	14世紀及び15世紀、イギリスに於ける社会的分業の展開 -レスタシャー州を中心として-	
昭和34	1238	アメリカ南部プランテーション制における黒人奴隷	
昭和34	1239	ヤスパースの実存哲学研究	
昭和34	1240	十七世紀イギリスの農民層分解についての考察 -ペニブロック伯爵のマナーに於ける土地調査書分析を中心にして-	
昭和34	1241	恐慌に関する一試論	
昭和34	1242	地租改正史 -寄生地主創出過程について-	
昭和34	1243	マックス・ウェーバー研究	
昭和34	1244	Enclosure and Labour Supply in the Industrial Revolution. -a view on the industrial revolution in England-	
昭和34	1245	海上保険の諸原理	
昭和34	1246	共同海損	
昭和34	1247	合衆国の共同海損 -英国の法律、慣習と比較して-	
昭和34	1248	保守主義の適用と限界	
昭和34	1249	売上収益の認識計上について	
昭和34	1250	監査基準批判 -監査報告準則「但し書」をめぐって-	
昭和34	1251	利益図表による利益管理	
昭和34	1252	原価計算制度に関する一考察	
昭和34	1253	利益剰余金の問題点(企業会計原則を中心として)	
昭和34	1254	企業利益概念の再検討 -機関企業利益決定に関する実質利益へのアプローチ-	
昭和34	1255	損益分岐点について -費用の分解を中心とした-	
昭和34	1256	棚卸資産評価における低価主義についての一考	
昭和34	1257	資本剰余金と留保利益の区別に関する一考察 -剰余金の減少面を中心として-	
昭和34	1258	資本減少に伴う払込剰余金の一考察	
昭和34	1259	監査概念分析による監査制度上の問題点	
昭和34	1260	賃率決定に関する若干の考察	
昭和34	1261	資金理論の序章	
昭和34	1262	損益分岐点分析	
昭和34	1263	繰延資産の会計的性格	
昭和34	1264	経済発展と貿易の役割	
昭和34	1265	STYLE OF BUSINESS ENGLISH に関する若干の考察 -RHETORICを中心として-	
昭和34	1266	貿易為替の自由化に関する総合的観察	
昭和34	1267	日本経済と国際収支	

小樽商科大学 卒業論文（昭和34年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和34	1268	英文広告文の書き方について -“AIDA” formula による訴求分析	
昭和34	1269	日本の貿易と経済発展	
昭和34	1270	日本の貿易と経済成長	
昭和34	1271	我国信託機構の変遷 -銀行の立場からみた信託経営の問題-	
昭和34	1272	国際貿易理論の展望と現代の課題	
昭和34	1273	通貨交換性の回復と貿易自由化に関する若干の考察 -日本を中心として-	
昭和34	1274	日本海外市場の動向 -アジア共同市場形成の問題点-	
昭和34	1275	日本工業生産物の輸出について (現在の実績と将来の展望)	
昭和34	1276	我が国の貿易の活路を何処に求めるべきか	
昭和34	1277	西欧諸国通貨の交換性回復に関する一考察	
昭和34	1278	貿易為替の自由化と経済統合	
昭和34	1279	自由貿易理論に関する小論	
昭和34	1280	後進国開発の根本問題	
昭和34	1281	ラテンアメリカの経済と貿易	
昭和34	1282	経営分析に於ける若干の考察	
昭和34	1283	最低賃金制をめぐる一考察	
昭和34	1284	F.W.テイラーの経営指導原理と精神革命に関する一考察	
昭和34	1285	利益計画と利益目標	
昭和34	1286	労使は如何にあるべきか	
昭和34	1287	経営管理組織におけるスタッフの正当な位置	
昭和34	1288	経営体に於ける人間関係	
昭和34	1289	中小企業の労働問題	
昭和34	1290	職務権限に関する諸概念の考察	
昭和34	1291	労働組合下の賃銀問題の一考察	
昭和34	1292	日本の労働組合運動 -日本労働者のあり方についての一言-	
昭和34	1293	生産性と労働組合	
昭和34	1294	資本と経営の分離についての一考察	
昭和34	1295	公開市場操作に関する若干の考察	
昭和34	1296	ケインズ経済学の発展の一試論に対する考察 -ハンセンの長期停滞理論及び補整的財政政策の評価-	
昭和34	1297	日本における金利体系と金利政策	
昭和34	1298	支払準備制度について	
昭和34	1299	金利政策の効果と限界 -イギリスを中心として-	
昭和34	1300	ケインズ利子理論の構造分析	
昭和34	1301	わが国における支払準備金制度の検討	
昭和34	1302	イギリスに於ける「質的信用統制の発達」 -金融政策についての反省-	
昭和34	1303	経済変動が株価に及ぼす影響	
昭和34	1304	金融財政の一体化問題に先だつ基本的反省	
昭和34	1305	我国戦後景気変動の一考察	
昭和34	1306	金融政策の効果と限界 -量的信用統制を中心として-	
昭和34	1307	株式市場戦後拾年史	
昭和34	1308	カレッキーの投資決定理論	
昭和34	1309	雇用理論研究 -一般理論を中心として-	
昭和34	1310	財政政策 -経済安定策を中心として-	
昭和34	1311	わが国に於ける石炭とその競合エネルギー	
昭和34	1312	資本主義と社会保障	
昭和34	1313	日本における重化学工業化と産業の二重構造	
昭和34	1314	ベンサム思想と現代の幸福論	
昭和34	1315	現代資本主義をどう捉えるか -変貌論を中心にして-	
昭和34	1316	マルクス理論批判に端を発した社会民主主義について	
昭和34	1317	戦後日本の労働者階級と革新政党	
昭和34	1318	日本貿易の発展と東南アジア市場 -資本財の輸出力強化をめぐる問題-	
昭和34	1319	経済学方法論に関する一考察 -M.ドブ「政治経済学と資本主義」を中心として-	
昭和34	1320	動態経済学におけるカレッキー理論とヒックス・ハロッド理論	
昭和34	1321	後進国開発と資本形成 -東南アジアにおける日本の立場-	

小樽商科大学 卒業論文 (昭和34年度)

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和34	1322	産業連関論と外国貿易	
昭和34	1323	修正資本主義に関する諸問題	
昭和34	1324	MacDougall Model における価格効果と構造効果	
昭和34	1325	国際経済学の一研究「世界的ドル問題」-ドナルド・マクドウガルの所説紹介-	
昭和34	1326	J.Tinbergen『政経政策:原理と企画』抄訳	
昭和34	1327	Price Effect and Income Effect in the Theory of the Balance of Payments	
昭和34	1328	成長率理論の一考察	
昭和34	1329	シュンペーターの社会観 -指導者階級を中心として-	
昭和34	1330	日本経済の発展と貿易の役割 -小島・篠原論争に関連して-	
昭和34	1331	国際的経済統合について -G.ミュルダール、国際経済論の商会を中心に-	
昭和34	1332	J.E.ミードの直接的貿易統制	
昭和34	1333	経済変動論に関する覚書	
昭和34	1334	ハーシュマン著『経済発展の戦略』	
昭和34	1335	ドル不足の解明 -E. Hoffmeyer の所論-	
昭和34	1336	ソ連圏の貿易事情	
昭和34	1337	A.O.ハーシュマン「経済発展の戦略」-第三章~第八章の紹介-	
昭和34	1338	資本蓄積と国際分業	
昭和34	1339	第一次大戦以降のイギリス商業銀行業の研究	
昭和34	1340	信用の本質と現代における信用供給	
昭和34	1341	イギリスに於ける古典的金融理論の吟味	
昭和34	1342	支払準備制度の研究 -アメリカの金融制度について-	
昭和34	1343	イギリスコール市場についての一研究	
昭和34	1344	わが国における証券市場の特殊性	
昭和34	1345	我が国の資本蓄積とインフレーション	
昭和34	1346	インドに於ける銀行業とその業務形態について	
昭和34	1347	金融資本、独占資本の日本型特殊形態としての財閥の変遷に関する研究 -研究対象は主に銀行資本-	
昭和34	1348	金利政策に関する一考察 -金利政策の現代的意義-	
昭和34	1349	金融資本の現代的アспектについて	
昭和34	1350	フィiscal・ポリシーと公債管理	
昭和34	1351	フランス金融制度と信用調整メカニズムについて	
昭和34	1352	経済変動と景気変動 -現代資本主義経済の再検討-	
昭和34	1353	企業経営における総合事務機械化	
昭和34	1354	変動需要に対する生産在庫計画	
昭和34	1355	「経済理論に於ける集合論的方法」特に、一般均衡体系の解存在証明への接近に関して	
昭和34	1356	標本調査について	
昭和34	1357	”計画と場” -場のベクトルについて-	
昭和34	1358	経済成長率と財政政策	
昭和34	1359	待ち合せ理論とその実例	
昭和34	1360	オペレーションズ・リサーチと鉄道経営技術	
昭和34	1361	一般均衡理論研究	
昭和34	1362	経済成長に関する若干の考察 -カルドアモデルを中心として-	
昭和34	1363	統計的線形計画法 -農業経営への応用-	
昭和34	1364	プロジェクト・プランニングに於ける直接原価計算とリニヤ・プログラミングの関係	
昭和34	1365	経営管理のオートメーション -事務機械化を中心として-	
昭和34	1366	産業連関論と経済理論との関係について	
昭和34	1367	在庫を考慮した生産販売計画 -L.P.の一応用-	
昭和34	1368	計量経済モデルの予測力	
昭和34	1369	税務会計における一考察 -法人税を中心として-	
昭和34	1370	減価償却会計への反省 -金融要素的減価償却論の出現と背景-	
昭和34	1371	決算貸借対照表に於ける資産評価原則に関する一考察	
昭和34	1372	売上高と売上原価	
昭和34	1373	資本剰余金 -商法規定を中心に-	

小樽商科大学 卒業論文（昭和34年度）

年度	番号	論題 (Theme)	備考
昭和34	1374	近代会計原則理論の特質 -特にアメリカに於ける歴史的展開-	
昭和34	1375	商法上の監査役制度に関する考察 -監査役制度改革案-	
昭和34	1376	利益剰余金と資本剰余金との区別についての若干の考察	
昭和34	1377	利益管理及び統制 第一部	
昭和34	1378	利益管理及び統制 第二部	
昭和34	1379	物価水準の変動と財務諸表	
昭和34	1380	減価償却に於ける歴史的概観	
昭和34	1381	原価管理に関する若干の考察	
昭和34	1382	総資本利益率の分析的観察	
昭和34	1383	利益図表とその活用	
昭和34	1384	これからの百貨店	
昭和34	1385	販売促進 -メーカーの立場からの考察-	
昭和34	1386	商及び商業の本質	
昭和34	1387	マーケティング政策としての販売経路の確立	
昭和34	1388	モチベーション・リサーチ -消費における人間行動の解明-	
昭和34	1389	需要の理論と分析 -マーケティング分析のための一指針-	
昭和34	1390	統計的予測 -単一方程式接近法を中心として-	
昭和34	1391	連立方程式体系による予測の問題とその評価	
昭和34	1392	標本調査論	